

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 2 7 年度第 1 回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成 2 7 年 6 月 2 3 日(火) 1 3 時 3 0 分～1 5 時 0 0 分
開催場所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	(1)「瀬戸・高松広域定住自立圏」の取組事業の評価について (2)連携中枢都市圏への発展的移行について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長、板倉委員、柴田委員、神内委員、常川委員、徳増委員、三井委員、宮本委員、好井委員、吉田委員
傍 聴 者	0 人 (定員 1 0 人)
担当課および連絡先	政策課 (839-2135)

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

(会長)

議題 (1) の瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンの変更について、事務局から説明をお願いしたい。

【「瀬戸・高松広域定住自立圏」の取組事業の評価について事務局から説明】

(会長)

まず、お願いしたいことがある。それは、平成 2 2 年度からこれまでの「瀬戸・高松広域定住自立圏」の在り方がどうであったかについて、委員にも評価をしていただきたいということである。これまでの 5 年間を振り返って、積み残しがあるものは何か、この地域ならではのものは何かなど、次回までに、事務局に意見を寄せていただきたい。

それでは、事務局から説明のあった、平成 2 6 年度の取組事業について、意見をお願いしたい。

(委員)

中心市と連携市町との情報共有・情報交換が大切である。これが進めば、取組も良い方向に進む。

(委員)

私の知る限りにおいて、過去 2 年間、高松市に目立った活動が見られなかった事業の評価が A となっていた。評価はどういう基準で行っているのか。

会議経過及び会議結果

(事務局)

評価の方法については、中心市は、達成度、向上余地度、活動量、効率的取組の4項目で評価を行い、総合評価としてA～Eで評価をしている。また、連携市町は、成果の点からA～Eで評価をしている。今回は、まず、連携市町が評価を行い、その結果を踏まえて、中心市が評価を行うという方法を試みたが、結果としては、中心市と連携市町との評価の乖離については、昨年度と変わらなかった。

(会長)

評価の方法は様々である。この評価結果のみをもって事業自体を問題視する必要はない。大事なことは、評価を行って悪い点があった場合、それをどのように改めていくかである。今の意見を、これからの取組の参考としていただきたい。

(委員)

連携市町の評価の理由に、中心市からの情報が十分でないため評価が難しいというものが見受けられた。中心市と連携市町でどのように情報交換を行っているのか。せつかく良い取組をしても、それが評価されないということがあれば残念である。

また、圏域の市町だけでは解決しない事業については、県との連携も視野に入れた取組が必要である。

(委員)

例えば、「7中心市街地におけるにぎわいの創出」は、中心市がAで、連携市町は全てDであるが、連携市町の意見に「連携する位置づけが不透明」というものがあつた。連携市町において、協約を締結した時の気持ちが薄れてきているのだろうか。

(委員)

中心市の評価が高い一方で連携市町の評価が低い事業については、今後、中心市のリードに期待したい。

(会長)

評価するということは、非常に難しいことであり、その結果に神経質になる必要はない。悪い結果がでた場合、それに踏み込んで分析を行い、今後に生かすことに意味がある。

(委員)

方向性の欄に「改善継続」とあるものについては、改善の取組内容をもう少し具体的に記載した方がよい。

(委員)

同じ評価であっても、それぞれの事業の難易度は異なる。Aを維持する又はCをBに上げることがかなり大変な事業もあることを理解しておく必要がある。

(委員)

非常に多くの事業があつて、これら全てをAにすることは現実的ではない。必ずしもAでなくても良い事業もあると思う。ファミリー・サポート・センター事業など、実施すること自体に意義のあるものは、評価の結果にそれほどこだわる必要はないと考える。最終的には、この評価を今

後どう生かしていくのかである。

(会長)

総括的ではなく、重点化することは、非常に大切である。重点的に取り組むべき事業は何かという情報をこの場で共有できれば、非常に有意義である。

(委員)

全体として、評価は、それなりの理由があってつけられているという印象を受けた。例えば、「25 大学等との連携」については、東かがわ市や三木町の評価に香川大学との連携事業が反映されている。また、「7 中心市街地におけるにぎわいの創出」では、他の市町が自分のこととして考えているかどうか表れている。さらに、「6 観光の振興」の「(1) 観光プロモーション事業」では、有名な観光資源があるかどうかで各市町の評価が分かれている。

(委員)

中心市と連携市町の評価基準が違うのであれば、評価に乖離があるのは仕方がないのではないか。

(会長)

評価の結果から我々委員が、今後に生かしていくための有意な情報を引き出せばよい。

(会長)

冒頭でも申しあげたが、是非、22 年度からの5 年間の議論を振り返っての意見を事務局に寄せていただきたい。また、事務局には、本日欠席の委員にも、本日の資料を送付する際、意見の提出を依頼してほしい。

(会長)

議題(2) 連携中枢都市圏への発展的移行について、事務局から説明をお願いしたい。

【連携中枢都市圏への発展的移行について事務局から説明】

(委員)

圏域が広がることになるのか。

(事務局)

平成28 年度の移行に当たっては、現在の3 市5 町の枠組みでのスタートを考えている。国の要綱において、中心市への人の流れが一定以上の割合があるところについては、圏域として考えていくことが求められており、現在、該当市町に打診もしているが、すぐに連携に加わるという状況にはない。

(会長)

私は、定住自立圏から連携中枢都市圏への移行とは、「地域」から、「機能」が重視されるようになったのだと解釈している。必ずしもエリアにはこだわらないが、明確な連携の機能が求められるということである。

(事務局)

圏域という概念から、中心市と連携市町が縁組でもするかのような印象

を受けるが、制度の中身は、協定を締結したそれぞれの項目について、連携して進めようというものである。従って、瀬戸・高松広域定住自立圏に入っている市町が、別の定住自立圏の団体と協定を締結することに何ら問題は無い。地方創生の議論の中で、地方が生活の場、経済活動の場として持続的な力を持つことが必要と言われているが、単体の市町だけでは、難しい部分もあるので、場面によって連携しながら事業に取り組み、ネットワークを造って、地域全体を良くしていこうという取組である。

(委員)

現在、策定中の総合計画の中身がある程度固まらないと議論ができないのではないかと。

(事務局)

市としての中心計画は総合計画であり、総合戦略と連携中枢の両方を織り込む中で、総合計画も策定していく必要があると考えている。事実上は3つの策定が同時並行で進んでいる。

(委員)

例えば、観光の振興を考える場合、県外の市町との連携も視野に入れるべきではないかと。

(事務局)

確かに、県の枠にとどまらない連携も重要な考え方だと思うが、これだけ多くの事業項目を現実に実施していくためには、まず、足元を固める必要があると考えている。

(会長)

一つ、一つ押さえながら進めることは大事である。いきなり広げると、焦点がぼやけてしまう。

(委員)

県の施策もにらみながら、議論をしていく必要がある。また、行政からの視点だけではなく、地域の意見にも耳を傾ける必要がある。

(会長)

この地域の特徴・特性を大所・高所からもう少し議論をしていくことによって、連携の中身、機能強化の中身が煮詰まってくると思っている。

こういう議論は、行政が行うと、細かいところにとらわれざるを得ないところがあつてうまくいかない。幸い、この懇談会の構成メンバーは各分野でそれぞれの所見を持っている人が集まっているので、忌憚のない意見を出し合う中で、良い議論ができると考えている。

(会長)

議題(3) その他について、事務局から何かあるか。

【今後のスケジュールについて事務局から説明】

(会長)

長らく続いてきた、「瀬戸・定住自立圏共生ビジョン懇談会」も今回で最後である。次回からは、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン(仮称)策定懇談会」へと移行することになるが、今後も引き続きご協力をお願いしたい。

(会長)

本日の会はこれをもって終了する。